

Book & Video 「消化器超音波内視鏡検査法」

監修 中澤三郎・川井啓市

編集 多田正大・芳野純治・山雄健次

東海大学大磯病院内科

上 野 文 昭

超音波内視鏡検査(以下 EUS と略す)は、過去 10 年間に登場した消化器診療の新技术の中で、最も重要なものの 1 つであろう。消化器診断学における EUS の有用性に関しては、既に内外の学会等で意見の一致をみているが、装置さえあれば誰もがすぐに使いこなせるという、簡便な手技ではないことも確かである。現時点での評価を支えているのは、開発当初よりこの手技を手掛けてきたエキスパート達の手になる EUS であり、未だ普遍性を持つには至っていない。EUS が本当の意味で市民権を獲得できるかは、これからこの手技を学び、行うであろう多くの内視鏡医達が、どこまでこのレベルに迫れるかにかかっている。

このように新しい診療手技が普及していくプロセスを diffusion と称しているが、一般にわが国の医学は、新しい手技の開発においては手際の良さを見せる一方、diffusion はあまり上手ではない。新技术について十分に学び、理解を深めようとはせず、先達の技術を見様見真似で行っていることが多いのが一因と思われる。海外の内視鏡医達が、時間

と経費を惜しまず、系統だった講習を受け、短期間に大勢が一定のレベルに達している現状を知らねばならない。

さて、このたび医学書院より刊行された、Book & Video『消化器超音波内視鏡検査法』の企画は、EUS が一握りのエキスパートの手から、多くの内視鏡医へと diffusion していくうえで、格好のものと考えられる。まず本書に目を通すと、本文、内視鏡写真、EUS 画像、組織像、イラスト等の配分が適切で、筆者のような EUS の初学者にとって不慣れな画像が理解しやすいことがわかる。頁を進めるうちに、知らず知らずのうちに理解が深まるほど親切に構成された、reader-conscious な書と言える。わが国の成書に共通する画像写真のクオリティの高さも魅力の 1 つである。それに加えて本書の特徴であるビデオの果たす役割も大きい。読者にはまず最初にビデオを観ることをお勧めしたい。EUS がどのようなものであるかを知るうえで、価値のある 30 分となろう。また超音波画像は単に静止画像にとどまらず、本来動

きのある dynamic な画像であるため、本を読んだうえで、また改めて観なおすことも大切であろう。いずれにしろビデオの活用のしかたは多様で、この Book & Video の企画に心よりの拍手を送りたい。

既に EUS の第一段階の手技がほぼ確立し、本書はその集大成として、当分の間、標準的テキストとしての位置を占めるであろうが、近い将来には、より高画質のミニチュアプローブの開発、カラードップラーの応用、あるいは EUS ガイドの狙撃生検などの新たな展開が期待されている。これらを網羅した本書の第 2 版の登場などを、想像するだけで今から胸が躍る。

本書の価格設定は妥当であり、確実に value for money と言える。これから EUS を学ぼうと考えているすべての内視鏡医に、またすべての内視鏡研修施設に、必須のテキストとして推薦したい。

● B5 判 222 頁 図 133 写真 264
原色図 165 VIDEO (VHS・30 分)
1992 定価 27,810 円(税込) ¥300

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)